

# ICCS 研究員報告

---



座 長

李春利（愛知大学）

報告者

秋山和宏（愛知大学）

宇都宮浩一（愛知大学）

李佳（愛知大学）



2008 年 12 月 7 日（日）

○座長 それでは、午後の部を始めさせていただきます。ICCSには「ポストドク」という制度があります。略してPDFと言います。パソコンのファイルのPDFではなく、これはポスト・ドクトラル・フェロー (Post Doctoral Fellow) の略です。ポストドク・フェローという制度があります。

毎年3名のポスト・ドクターの若手研究者がおりまして、彼らはICCSの重要な戦力であると同時に、またICCSという場でご自分の研究成果を発表していただいております。若手育成には、これは大変よい制度であり、しかも公募制をとっています。中国語で言うと、これは「博士後研究

員 (bo shi hou yan jiu yuan)」になります。とりわけ文系の、社会科学系のポスト・ドクターの制度が日本では少ないため、大変人気があるようです。

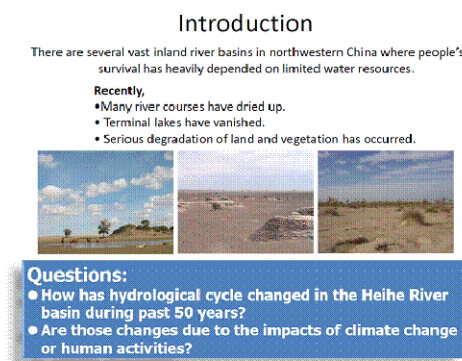
今日は、現役の3名のポスト・ドクターに、それぞれの研究成果について発表していただきます。1人15分で、質疑応答は、最後の総合討論の時間にさせていただくということになっています。

まず秋山研究員、それから宇都宮研究員、さらに李佳研究員の3名です。それでは、早速ですが、秋山研究員からお願いいたします。

## 「中国西北地方の乾燥地域における人間活動と水循環の相互作用」 秋山知宏 (愛知大学)

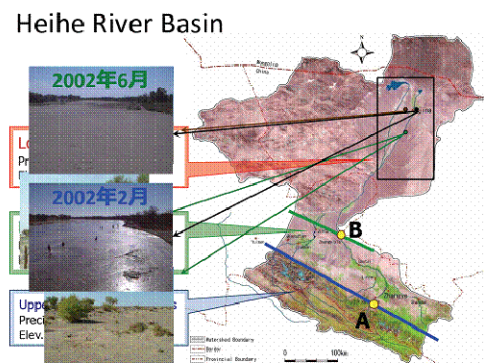
ご紹介ありがとうございます。私の発表題目は「中国西北地方の乾燥地域における人間活動と水循環の相互作用」です。延べ1年以上にわたる現地観測をおこないましたので、それに基づいて報告いたします。今日は、時間の関係上、一部しかお話できませんので、詳しくは論文をご覧くださいいただければ幸いです。

気候変動の影響でしょうか、それとも人間活動の影響でしょうか。また、このような水不足を解消するために、さまざまな節水政策が積極的に推し進められてきました。思惑どおりに水不足は解消されたのでしょうか。今日は、過去50年間の水環境の変化を、気候変動と人間活動の両面から検討いたします。



中国西北地方の乾燥地域に暮らす人々は、限られた水資源を頼りに独自の生業を営んできました。しかし近年、急激な水不足に悩んでいます。この左の写真は、河川が途中で消えてしまう断流現象です。真ん中の写真は、湖が干上がってしまった様子です。右は、植物が枯死してしまった様子です。

このような水不足は、なぜ起きたのでしょうか。



まず対象地域の説明です。黒河はチベット高原北縁を形成する祁連 (きれん) 山脈に源を發し、甘肅省の張掖 (ちょうえき)、酒泉 (しゅせん) などのオアシス都市を通過して北流します。内蒙古自治区に入って消滅する中国第2位の内陸河川です。全長は800キロメートル、流域面積は13万平方キロメートル、これは日本の面積の3分の1にあたります。